

大河ドラマ「風林火山」は武田の名軍師“山本勘助”を中心に描かれており、今の時代背景もあって視聴率が高いようであります。

昔から中小企業の経営者には、必ずよき先輩、師があり、終生の友がいて、仕事の悩み、資金繰りの不安が生じた時は、本音で相談し心を支えくれる人を持っていました。

私は昭和39年、今から凡そ42年前、漁場の埋め立てが決まり、海で繁盛した秋元水産をいち早く改組して転業。富士食品を創立して現在の商売へ入りました。

海から上がった河童は、家を追われ、子ども等は妻の実家へと預け、華やかに開会された東京オリンピックの頃は金田海岸へ野宿して、働けど働けど全く光の見えない無謀な挑戦をいたしておりました。

こうしたどん底の私達を支えてくれたのは、亡き妻であり、友、恩師でありました。

開業から3年目から4年目にかけては、厳しい胸付き八丁を迎えておりました。親からは勘当を申し渡されておりましてから、資金源は頼るところもなく、わずかな預金は使い果たし、後戻りしようと思いましたが、もう帰る道もなくなっておりました。

私は意を決して、小学生の頃から父親代わりに私を可愛がってくれていた恩師を訪ねました。「先生、私は転業以来寝食を忘れ、不眠不休で働いてきましたが、まだまだ道が開きません。私を信じて共に苦労している家族がいます。今更、やめる事も、死ぬこともできません。これからはもっと頑張る、努力をいたしてまいりますので、先生どうか私の相談相手になってください。挫けそうになった時、私の心の支えになっていただきたい・・・。」と必死に頼みました。「私の会社は今、貧乏ですから先生にはお礼は出来ません。今私の給料は20万です。これしか差し上げられません。私は金はなくても心の支えがあれば生きて行かれます・・・。」と懇願しました。

先生は「そこまで俺を頼りにしてくれたのは秋元君、君だけだ！分かった!!俺の持っているものすべてを君のために投げ出して応援するから心配するな!!」と励まし、快諾してくれました。

その先生は、千葉県教育界の法皇と言われた鱸三佐男先生でした。

以来平成13年5月、90歳で亡くなられるまで、30数年間私達親子2代の絶大な御意見番、守役をして下さいました。

私は人生70年、それなりに強い信念を持って生きてきましたが、答えを迷った時はこの師の教えの通りに決めて、生涯後悔したことは一度もありませんでした。

人生には時として人と争い、悩むことが多くあります。

そんな時、たった一人でもいいからその人の意見に、時には自分の考えを変えることが出来る人が必要だと私は思っております。私の妻は約束どおり30数年「秋元年金です」と恩師へと送ってくれておりました。実は私もまた40年来助けてくれた人、数名には自分の給与、年金の中から送り続けている人達があります。知る人はそれを「秋元年金」だと褒めて下さいます。

あえて申し上げたいのは、中小企業は経営が苦しいからとリストラをしてはならない。まずは経営者の給与を減らしてからですと申し上げたい。わが社はそうして不況以来、一人もリストラは出しませんでした。

社員は必ず自分の給与は稼いでくれるからであります。